

4年ぶりに通常開催となった“2023ひろしまフラワーフェスティバル”に参加しました
—グアナフアト州知事をお迎えして、大いに盛り上がりました—

“2023ひろしまフラワーフェスティバル”は、G7広島サミット開催に配慮して、従来の5月3日～5日開催から日程を6月10、11日の2日間へと変更しての開催となりましたが、平和大通りのパレードやステージなど、4年ぶりに通常開催されました。

当親善協会では、花の総合パレード参加、東京より招聘したマリアッチ楽団“マリアッチ・カラベラ”の両日合わせて5回のステージ出演参加、そして2016年から出店しています“マツダひろば”でのグアナフアト物品販売に協力しました。

10日に行われた花の総合パレードには、「オラ！メキシコ・グアナフアト」というパレード・タイトルで、マツダ本社工場のメキシコ人実習生35名を含め、200名をはるかに超える参加者とともに、グアナフアト州との友好、さらには翌日からのグアナフアト州知事広島訪問歓迎をアピールしながら、家族やグループなど、参加者それぞれがメキシコの衣装やメキシコ国旗カラーのTシャツを着用して、歓迎の幟、国旗手旗を手に、1.2キロの距離を歩きました。



マリアッチ・カラベラを先頭に平和大通りを行進



行進しながら民族衣装での踊りを披露



メキシコ人参加者はパレードをとても楽しんでいました

また、今回東京より招聘した“マリアッチ・カラベラ”は、2日間で5つのステージに出演し、11日の平和記念公園内カーネーションステージと“マツダひろば”のコスモスステージには、広島県湯崎知事、グアナファト州ロドリゲス知事が登壇されました。

湯崎知事、ロドリゲス知事からはグアナファト州のことや、これまでの両県州の交流などの紹介があり“マリアッチ・カラベラ”の演奏でステージは大いに盛り上がりました。

今回のフラワーフェスティバルは、2日間で120万人の来場者があったことが発表され、この4年間多くの方々が広島の祭典の再開を待ち望んでいたことが伺われました。

来年も両県州の交流を多くの方々にアピールできるよう準備してまいりますので、会員の皆様には更なるご支援ご協力をお願い申し上げます。



マリアッチ・カラベラをバックに、カーネーションステージに登壇したロドリゲス知事と湯崎知事



コスモスステージに登壇したロドリゲス知事と湯崎知事、向かって左側にはプリーア駐日メキシコ大使



オリーブステージで演奏する“マリアッチ・カラベラ”